

保護区“いちやびらー”の利用実態調査

(資源管理体制推進事業)

水産海洋技術センター本部駐在 上原匡人

水産課漁業管理班 中村博幸

1. 目的と背景

沖縄県の漁船漁業における重要な漁獲対象資源であるアオダイ、ハマダイ、ヒメダイ、オオヒメのフエダイ科 4 種を含む深海性フエダイ類の漁獲量は、1980 年頃をピークに急減し、2004 年以降、盛期の約 1/10 で推移している(青沼・田邊、2014)。このような現状を受け、琉球列島海域では、特に漁獲量の多いアオダイ、ハマダイ、ヒメダイおよびオオヒメの 4 種(以下、特に記載がない限りは、マチ類はこれら 4 種を指す)を対象に、2005 年より資源の維持・回復を図るための取組を実施している。

近年、ハマダイやアオダイでは、南琉球の個体群と沖縄本島周辺の個体群では遺伝的な差が認められるという(今井ら、2015)、このことは、遺伝構造が異なる海域単位で管理を行う必要があることを示している。北部地域でも、“いちやびらー”の保護区を設定し、資源管理に取り組んでいるが、その利用実態については不明な点が多く、その解明が求められている。

2. 方法

沖縄島の中・北部地域でセリを開設している市場のうち、国頭、名護、恩納、石川漁協のセリ市場を巡回し、適宜、マチ類 4 種の尾又長(cm)を測定した。また、可能な限り海人や漁協関係者から漁場の聞き取りを行い、委員会指示の履行確認と努力目標(小型魚が獲れた場合は漁場移動)の達成状況について調査を行った。

3. 結果と考察

(1) 水揚げされた尾又長組成

沖縄海域では、ハマダイ 30 cm 未満、アオダイ、ヒメダイ、オオヒメ 20 cm 未満が漁獲された場合には、努力目標として漁場移動を推奨している。中・北部地域のセリ市場で水揚げされたマチ類 4 種の尾又長組成をみると、これらの体長未満の個体が占める割合はハマダイが 21%、アオダイが 2%、ヒメダイが 12%であった(図)。この値は、県内のマチ類の水揚げの 9 割以上の水揚げを誇る泊魚市の水揚げ状況と比べて、同等あるいはそれ以上であった(上原ら、2016a)。しかし、ハマダイやアオダイでは、現行の漁獲圧を維持し、小型魚を保護する管理策を継続しても、資源の大幅な回復は見込めないことが示されており(海老沢ら、2009; 上原、2016b; 上原ら、未発表)、今後、北部海域においても大幅な漁獲圧の削減は不可避である。比較的、資源の安定しているマグロ類やメカジキなど他漁業への転換や海域に負担の少ない海藻類養殖など複合的な漁業経営を行うことにより、漁獲圧の低減を図っていく必要がある。

(2) 漁場の利用状況

北部海域におけるマチ類の漁場は、海人の拠点となる漁港あるいは港湾により左右されていた。すなわち、本島北部の西側に拠点を有する海人は主に西側の漁場を、東側に拠点を有する海人は主に東側の漁場を利用していた。西側の漁場として奄美海域、与論周辺海域、偉業曾根、硫黄島、伊平屋島および伊是名島周辺、

伊江島周辺、読谷沖を利用していた。また、東側の漁場としては、国頭村の東海岸から東村にかけての沖合（“いちゃびらー”を含む）、辺野古沖、金武湾沖を利用していた。“いちゃびらー”の利用状況については、今年度の調査期間中は確認できなかった。かつて“いちゃびらー”は、本島西側からの利用もあり、1航海で漁船（サバニ船）が沈むほどアオダイやヒメダイが釣れたという。漁協関係者への聞き取りによれば、現在“いちゃびらー”のみに依存している海人は2~4経営体であった。今後、中・南部も含めてさらに調査を進めていく必要はあるが、保護区に重きを置いた管理策を展開するのであれば、海域単位で管理を行っていく必要性を考慮すると、他の保護区に比べて圧倒的に依存度が低いことから、周年保護区を設定することが有効な手法となろう。

4. 引用文献

上原匡人・島田和彦・秋田雄一・太田 格・海老沢明彦（2016a）2014 年度に沖縄海域で

漁獲されたマチ類 4 種の漁場別漁獲量および体長組成. 平成 26 年度沖縄県水産海洋技術センター事業報告書, 印刷中.

上原匡人・太田 格・海老沢明彦（2016b）沖縄海域におけるアオダイの資源評価. 平成 26 年度沖縄県水産海洋技術センター事業報告書, 印刷中.

今井秀行・外間一樹・甲斐哲也・太田 格・上原匡人（2015）琉球列島におけるハマダイとアオダイの遺伝的集団構造解析（予報）. 平成 27 年度日本水産学会秋季大会講演要旨.

青沼佳方・田邊智唯（2014）平成 26 年度マチ類（奄美・沖縄・先島諸島）の資源評価. 平成 26 年度我が国周辺水域の漁業資源評価第 2 分冊, 1135-1171.

海老沢明彦・平手康市・山田真之（2009）琉球列島産ハマダイの資源管理方法の検討. 平成 20 年度沖縄県水産海洋研究センター事業報告書, 70 : 23-27.

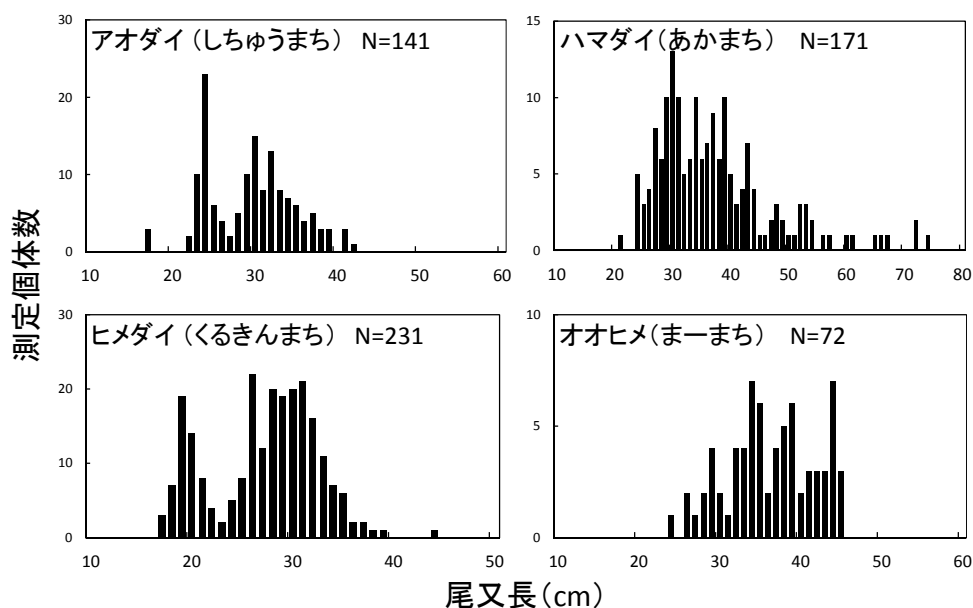


図 北部地域のセリ市場に水揚げされたマチ類 4 種の尾又長組成